

<競技注意事項>

- 1 競技運営は 2025 年度（財）日本陸上競技連盟競技規則、大会要項及び本大会申し合わせ事項により実施する。
- 2 競技者は配付したアスリートビブスを胸部背部に付けて出場すること。なお、トラック個人種目、リレーのアンカーは用意された腰ビブスを付けること。
- 3 選手の練習は補助競技場でけがをしないように十分注意して行うこと。ジャベリックボール投の練習は公園・芝生等では行わず、招集後フィールドに入ってからのみ行う。補助競技場への入場は選手及びバッジを付けた監督・コーチのみとし、これ以外の入場は厳禁する。
- 4 招集時間
プログラム 1 頁記載の時間に遅れないように競技場の 100m スタート側の入口に集合し、競技者係に種目、組、レーン、チーム名、自分の名前を申し出る（コールという）。このコールをしない者は競技に出場できない。招集終了後、審判員の引率で所定の位置に移動する。コンバインドの 2 種目目も同様とする。（ただし、男子コンバインド A は 2 種目同時に招集を行い、1 種目終了後 2 種目目に移動する。）
リレーのオーダー用紙（競技者係に設置）は招集完了 1 時間前までに競技者係に提出する。（当該リレーチームに申し込んであるメンバーでオーダーを組むこと）
- 5 スタートの合図はイングリッシュコールとする。同じ競技者が 2 回不正スタートをしたときは、その競技者を失格とする。スタートはクラウチングとする。（コンバインド種目含む）
- 6 男女混合リレーは男女各 2 名で編成し、走順は自由とする。テイクオーバーゾーンは 30m とする。マーカーは各チームで用意し、レース後は撤去する。
- 7 トラック競技では各レーンはプログラム記載のとおりとする。また、トラックの 100m、80m ハードル、4×100m リレーは自分の決められたレーンを走ること。
- 8 リレーとフィールド競技を同じ時間帯で出場する場合は、トラック競技を優先する。フィールド競技からトラック競技へ行く場合は、担当審判員に申告して、順番を変更して試技をすることはできる。トラック競技から戻った時に、ラウンドが終了していても、2 回のそのラウンドはパス扱いとなり、ラウンドの復活はできない。
- 9 コンバインド
 - (1) 80m ハードル競技は、ハードルの高さ 70 c m、ハードル間 7 m、ハードルの台数 9 台、スタートから第 1 ハードルまで 13m、最終ハードルからゴールまで 11m とする。
 - (2) 走幅跳は 2 回の試技を行う。
 - (3) 80m ハードルと走幅跳における風速は得点と順位に影響しない。
 - (4) 走高跳は男女とも 80cm と 1 m で練習し、90cm より試技を始める。男女ともバーの上げ方は 1 m 20 まで 5 c m とし、それ以上は 3 c m とする。マットへの着地は足裏からとし、背・腰等からの着地は無効試技とする。2 回続けて失敗した時点で終了とする。

- (5) ジャベリックボール投はやり投ピットで行い、助走は15m以内とする。角度もやり投同様とする。競技場備え付けの用具を用い2回の試技を行う。
- (6) 得点は男女とも同一の日本陸連制定の得点表で行い、2種目の合計得点で順位を決定する。上位8位までの複数競技者が同得点の場合、2種目のそれぞれの参加者全員での順位を出し、(80mハードルは1/1000秒まで、走高跳は無効試技等も考慮し、走幅跳・ジャベリックボール投はセカンド記録も考慮する。) 順位の平均が良い方を上位とする。順位の平均が同じ場合には抽選とする。
- (7) スタートまたは試技を行い、途中棄権、記録無し、失格および参考記録(80mハードルにおいて不正スタートとなりオープン参加時の記録)の場合、得点は0点とする。
- (8) 1種目目に出場し、途中棄権、記録無し、失格、参考記録の場合、2種目目の出場は可能とする。ただし1種目目で欠場した(スタートまたは試技を行わない)競技者は、2種目目には出場できない。
- (9) 1種目目または2種目目のいずれか、または両方において、途中棄権、記録無し、失格、参考記録の場合、2種目の合計得点は、コンバインド得点として認められる。
- (10) 「100点以下の記録は、すべて100点とする。」に関しては、適用しない。
- 10 リレーで2～6位までに入ったチームのメンバー6名も本大会の個人種目に出場できるが、東海大会はリレーあるいは個人種目1種目のみの参加を認める。
- 11 各種目8位まで賞状、3位までメダル(楯)を授与する。
- 12 スパイクのピンの長さは9mm以下とする。安全面から素足は認めない。スパイクを履いたまま競技場室内廊下を歩かないこと。
- 13 出場する選手及び競技役員・補助員以外、トラック及びフィールド内に入らないこと。
- 14 選手のけが等の応急処置は救護室で行うが、以後の責任は各チームが負う。